



アストンマーティン Valkyrie、2年目のレースシーズンは ロレックス・デイトナ 24 時間レースへの挑戦で幕を開ける

- アストンマーティン、40 年以上を経てロレックス・デイトナ 24 時間の最上位クラスに復帰
- アストンマーティン Valkyrie、世界に名高い米国の名門耐久レースに初参戦
- アストンマーティン THOR チーム、2025 年 IMSA ウェザーテック・スポーツカー選手権の鮮やかなクライマックスからの勢いの維持を目指す
- IMSA 常連のロマン・デ・アンジェリスとロス・ガンに、マルコ・ソーレンセンとアレックス・リベラスがロレックス・デイトナ 24 時間レースに参加
- Valkyrie は、IMSA と世界耐久選手権（WEC）という 2 つの世界最高峰スポーツカーシリーズの両方で戦う、唯一の公道走行可能なハイパーカー



2026年1月19日、デイトナ（米国）：

今週末、アストンマーティンの衝撃のハイパーカーValkyrieが、2026年IMSAウェザーテック・スポーツカー選手権（IMSA）の開幕を飾るロレックス・デイトナ24時間レースに初参戦し、モータースポーツの物語に画期的な新章を書き始めます。

米国フロリダで開催される第64回大会にアストンマーティンTHORチームのValkyrie出場は、英国のウルトラ・ラグジュアリー・ハイパフォーマンス・ブランドであるアストンマーティンにとって、40数年ぶりの最上位GTPクラスへのワークスカーの挑戦になります。

Valkyrieの競技バージョンは、世界究極の公道仕様のハイパーカーを純粋なレース仕立てにした車両です。今週末、幸先の良いデビュー年となった2025年を経て、競技2シーズン目をスタートさせます。レース仕様のValkyrieは、アストンマーティンとThe Heart of Racing（THOR）によって生産モデルをベースにして開発された、レース用に最適化したカーボンファイバー製のシャシーに6.5リッターV12エンジンの改良版を搭載しています。標準仕様のエンジンは最高回転数11,000rpm、最大出力は1,000PSを超えますが、ハイパーカーおよびGTPのレギュレーションに従い、出力は厳密に500kW（680PS）に抑えられます。

ロレックス・デイトナ24時間レースで唯一のV12車両であるValkyrieは、北米最高峰の耐久シリーズであるIMSA、そしてFIA世界耐久選手権（WEC）のいずれにおいても、唯一公道仕様のハイパーカーをベースにしている車両でもあります。今週土曜日の13:40（米国東部標準時）にグリーンフラッグを受ける瞬間、この車両はデイトナの初登場の車種として歴史的第一歩を刻むことになります。

ドライバーは、IMSAフルシーズン出場のワークスドライバーでIMSA GTチャンピオンのロマン・デ・アンジェリス（カナダ）とロス・ガン（英国）に、FIA世界耐久選手権（WEC）にValkyrieで出場したワークスドライバーのアレックス・リベラス（スペイン）とマルコ・ソーレンセン（デンマーク）が加わります。今回、4人のドライバー全員が、ロレックス・デイトナ24時間レースGTPクラスに初出場します。

Valkyrieは、ロード・アトランタで開催されたIMSA最終戦の2025年モチュール・プチ・ル・マンにおける輝かしい総合2位で終えた初年度を後に、国際モータースポーツ参戦2シーズン目に踏み出します。昨シーズンは、WECにおいても富士の5位、最終戦バーレーンでは一時はレースをリードする走りで最終的に7位をつかむなど、好調なポイント獲得も続きました。

アストンマーティンTHORチームのValkyrieは、IMSAでは期待を大きく上回り、北米を代表する8つのサーキットで合わせて4,600マイルを超える厳しいレースを戦い抜きました。3月にセブリング12時間レースでデビューしたValkyrieとアストンマーティンのIMSA最高記録は最終戦ロード・アトランタで獲得した2位でしたが、全体を通して見ると、Valkyrieは8回スタートして7回のトップ10内チェッカーフラッグ通過を果たしています。

アレックス・リベラス、アストンマーティンValkyrie 23号車ドライバー：「デイトナに戻ることを光栄に思います。今回は初めて、最上位クラスでのレース出場です。Valkyrieにとってはロレックス24時間のデビュー戦で、デイトナは最も過酷なサーキットというわけではないか

かもしれませんが、チーム、ドライバー、マシンには、特に初戦として、極めて厳しいレースになります。シーズンを24時間レースで始めるのは難しいことで、簡単に足をすくわれてしまいかねません。今回は具体的な期待を持たずにレースに臨むことになりますが、楽しみにしていることはたくさんあります。学ぶことは多く、マルコ、ロマン、ロスとまた一緒にやれるのは、新学期初日のような気分です」

ロス・ガン、アストンマーティンValkyrie 23号車ドライバー：「Valkyrieにとって初めてのロレックス24時間レースとなるデイトナで一年を始められるのはすばらしいことです。もちろん、完走を目指していますし、このサーキットにおけるGTPレースの流れについてももう少し理解することも目指しています。再びアストンマーティンTHORチームと共にレースできることを、とても楽しみにしています。短い冬でしたが、裏ではたくさんの作業が進められていました。冬の間に学んだことが、どのように実践で実を結ぶか、早く見たくてしかたがありません。デイトナはいつでも一年のスタートに最高の場所で、素晴らしい雰囲気があります。ここで、その後のシーズンのトーンが決まるのです」

ロマン・デ・アンジェリス、アストンマーティンValkyrie 23号車ドライバー：「IMSAのValkyrieプログラム2年目の開始と、ロレックス・デイトナ24時間レースでのこのマシンのデビューを楽しみにしています。デイトナ24時間は素晴らしいレースで、シーズンのハイライトの一つでもあります。アストンマーティンTHORチームの仲間すべてと共に迎える2026年度のスタートに、これ以上のものはありません。昨年からの前進を今年も推し進めていくことを楽しみにしています」

マルコ・ソーレンセン、アストンマーティンValkyrie 23号車ドライバー：「ロレックス・デイトナ24時間レースは、モータースポーツにおいて最も厳しく、最も名誉あるレースの一つです。どれだけ過酷なものであるかは承知していますが、挑戦するための準備も万全で、私たちは実現しうる最高の結果の達成に完全に集中しています。個人的には、2026年はロレックス24時間の最上位クラスへの初出場という最高の出だしで、アストンマーティンTHORチームと再びレースできることを本当に楽しみにしています」

イアン・ジェームズ、アストンマーティンTHORチーム代表：「アストンマーティンTHORチームのValkyrieにとってはロレックス・デイトナ24時間レースへの初参戦となりますが、私たちは準備なしに臨むわけではありません。デイトナ周辺で徹底的にマシンのテストを行いますし、The Heart of Racingはこのレースに関して優れた実績を持っています。どのような順位になるのかは予想が難しいところですが、いつものように、自分たちがコントロールできることに集中してレースを戦っていきます。つまり、ミスのない実行、優れたピットワーク、集中したドライビング、正確で素早い戦略であり、当然のことながらマシンから最大限のパフォーマンスを引き出すことです。24時間レースでは多くの場合、これらが成功の鍵を握る要素と

なります。IMSAで何よりも大切なのは、最後まで戦い抜くことです。これらの目標の達成によって日曜の午後にどのような場所に到達できるかが楽しみです」

アダム・カーター、アストンマーティン耐久モータースポーツ責任者：「Valkyrieプログラム開始から1年がたち、この間には大きな前進がありました。それは技術的な面だけでなく、ドライバーやスタッフ、プログラム全体の文化醸成という面でも言えることです。国際プログラムが成功するには明らかに時間がかかります。安定して成功を収められるような形に持つていく必要があります、現在はまだこのプロセスの極めて初期の段階にあります。目標を達成するためにやらなければならないことは多いのですが、私たちは明らかに正しい方向に進むことができます。ロレックス・デイトナ24時間レースは北米で最も有名で最も重要な耐久レースであり、それゆえにValkyrieにとって新たな主要マイルストーンとなるものであり、Valkyrieのパフォーマンスを理解し伸ばしていくための貴重なデータをさらに入手する機会ともなります」

こちらのプレスリリースに関する素材は、下記よりダウンロード可能です。

<https://we.tl/t-LEbtL69j5z>

アストンマーティン・ラゴンダについて

アストンマーティンは、世界でもっとも熱望されるウルトラ・ラグジュアリー・ブリティッシュ・ブランドとなることを目指し、人々を魅了してやまないハイパフォーマンス・カーを作っています。

ライオネル・マーティンとロバート・バンフォードによって1913年に設立されたアストンマーティンは、スタイル、ラグジュアリー、パフォーマンス、エクスクルーシブネスを象徴するグローバル・ブランドとして知られています。アストンマーティンは、最先端のテクノロジー、卓越したクラフトマンシップ、美しいスタイルを融合させ、Vantage、DB12、Vanquish、DBX707に加え、同社初のハイパーカーであるValkyrieなど、高い評価を得ている一連のラグジュアリー・モデルを生み出しています。また、Racing. Green.サステナビリティ戦略に沿って、アストンマーティンは2025年から2030年にかけて、PHEVとBEVを含むブレンドドライブトレインアプローチによる内燃エンジンの代替システムの開発にも取り組んでおり、電気自動車のスポーツカーとSUVのラインナップを持つという明確なプランを描いています。

英国のゲイドンを拠点とするアストンマーティン・ラゴンダは、ラグジュアリー・カーを設計、製造、輸出し、世界で50以上もの国で販売しています。スポーツカー・ラインナップはゲイドンで製造されており、ラグジュアリーSUVのDBXは、ウェールズのセント・アサンで製造されています。同社は、2030年までに製造施設をネットゼロにする目標を掲げています。

ラゴンダは1899年に設立され、1947年にアストンマーティンとともに故デビッド・ブラウン

卿に買収され、現在は「Aston Martin Lagonda Global Holdings plc」としてロンドン証券取引所に上場しています。

2020年には、ローレンス・ストロールが同社のエグゼクティブ・チェアマンに就任し、未来の重要な分野に対して新たな投資を行うと同時に、アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ1®チームとともにモータースポーツの頂点へと復帰し、英国を象徴するブランドとして新たな時代へと乗り出しています。



<https://media.astonmartin.com/>

メディア問い合わせ先：

株式会社ブレインズ・カンパニー

加藤 七瀬：070-7611-6970 中井 美里：070-2238-5865

astonmartin-pr@pjbc.co.jp